

2026年度春期キリスト教教育強調週間

2026年5月18日
キリスト教委員会

2026年度春期キリスト教教育強調週間を以下の通り計画しました。

今回の強調週間では、循環農学類作物学研究室教授の義平大樹先生から「二人の知的障がいの息子を授かって——出会いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」というテーマでお話をさせていただきます。義平先生にはお二人の障がいのあるお子さんがいらっしゃいます。先生は二人の障がいのあるお子さんを授かったことが単なる偶然ではなく、神様が何らかの役割を自分たち夫婦に与えるために、障がいのある二人の息子を与えてくださったと考える方が積極的な生き方ができると考えるようになったと言っておられます。先生がこのような考えに至るには、学内の二人のクリスチャンの先生から今回の強調週間の聖句でもあるヨハネによる福音書 9 章 1-5 節を紹介されたこともきっかけのひとつとなったとのことです。お二人のお子さんとの出会い、学内のクリスチャン教員との出会い、そして聖書の言葉との出会いが先生を「出会いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」という新たな在り方へと導き、先生は洗礼を受け、クリスチャンとして歩んで来られました。

クリスチャンの農学者である先生はまさに「三愛精神」と「健土健民」の体現者であり、サブテーマとして先生が取り組まれている「農福連携」（農業と福祉のコラボレーション）の働きを支えているのも、お二人の息子さんをはじめとするかけがえのない出会いであり、そこには聖書とキリスト教を背景する先生の信仰者としての生き方があります。この機会に学生と教職員のみなさんと「出会いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」という義平先生の歩みを共有したいと願っています。

記

日時：2026年6月16日（火）10時40分～12時10分

場所：黒澤記念講堂

聖書：ヨハネによる福音書 9 章 1-5 節

主題：「二人の知的障がいの息子を授かって——出会いは必然と考える方が積極的な生き方ができる」

講師：義平大樹先生（循環農学類作物学研究室教授）

【講師紹介（自己紹介）】義平大樹（よしひら・たいき）先生

1965年3月兵庫県神戸市生まれ。1989年北海道大学農学部修士課程修了。北海道農業改良普及員を経て、1991年酪農学園大学附属農場助手。1998年酪農学部酪農学科へ異動。2009年同教授。2011年より農食環境学群循環農学類教授。農学博士。専門は作物栽培学。ムギ類（コムギ、ライムギ）、マメ類（ダイズ、アズキ）、トウモロコシ類（デントコーン、スイートコーン）の安定多収栽培について研究している。二人の知的障害の息子を授かったことをきっかけに39才で受洗。趣味はマラソン、コーラス、（下手な）ピアノ。

以上